

実験の世紀—東日本大震災から2年を経て

2年前の2011年3月11日に我々は、未曾有の大震災を経験しました。

近代以前の人類にとって、理不尽さは自然の脅威でした。

よって人々は自然に畏怖心を持っていました。

特に、わが国は台風や火山や地震や津波だけでなく、日照りや冷夏にも翻弄されてきました。

その反面、四季の美しさや自然の恩恵を十二分に受けて感謝している国でもあります。

近代には、産業革命によって人間の力が大きくなり、その結果、人間が作った社会が理不尽を作り、新たな脅威になりました。その拡張する人間社会を科学力を 利用したり、資本主義や社会主義といった国家体制を利用したりして安定したものにしようとしてきましたが、未だ成功していません。

そして、2011年3月11日に我々は、地震・津波という自然の脅威と、原発事故という人間社会が作り出した脅威を同時に経験しました。コントロールできない自然と科学そして経済を経験しました。

まさに、実験の時代が続いています。

自然と社会が作り出した理不尽な運命に翻弄された人々がいます。

無念な思いで時を止めた人々、その魂と共鳴し無念の思いに漂っている人々やその魂の無念を晴らして見せる為に、新しい状況を創る人々がいます。

まさに時代は、運命から試されている。歴史から問われている。

自然や人間社会は、時にして理不尽で我々の運命を翻弄するものですが、同時に豊かな富や時間を提供してくれる存在でもあります。

今こそ、自然資本と人間関係資本の増幅に資する時代を作り、理不尽な運命に翻弄された無念を癒せる社会を作り、実験を終わらせなければならないと考えます。

2013年3月11日

アマタホールディングス株式会社

代表取締役会長兼社長 熊野英介